

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	放射線災害医療学講座(論文・著書・発表等)
Author(s)	
Citation	福島県立医科大学業績集. 30: 347-349
Issue Date	2020-03-19
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/1194
Rights	©2020 福島県立医科大学
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2023-05-05T13:08:47Z

University（当院における中枢神経系原発 DLBCL の治療成績）．第 80 回日本血液学会学術集会; 20181014; 大阪. 臨床血液. 59(9):1783.

高橋裕志, 野地秀義, 木村 哲, 大河原浩, 七島晶子, 原田佳代, 佐野隆浩, 深津真彦, 池添隆之. The retrospective analysis of intraocular lymphoma in a single institution（単施設における眼内悪性リンパ腫症例の後方視的解析）．第 80 回日本血液学会学術集会; 20181014; 大阪. 臨床血液. 59(9):1795.

〔シンポジウム〕

佐藤史顕, 植弘奈津恵, 佐治重衡, 戸井雅和. リキッドバイオプシー：ctDNA、CTC、microRNA など Circulating DNA に対するエピジェネティック解析の乳癌診断への応用. 第 26 回日本乳癌学会総会; 20180518; 京都. プログラム・抄録集. 292.

〔特別講演〕

佐治重衡. 乳癌に対するホルモン療法の効果予測. 第 18 回関東ホルモンと癌研究会; 20180127; 川越.

佐治重衡. 改訂された新ガイドラインの紹介（患者セミナー）．第 26 回日本乳癌学会総会; 20180518; 京都.

放射線災害医療学講座

論 文

〔原 著〕

Hasegawa A, Takahashi M, Nemoto M, Ohba T, Yamada C, Matsui S, Fujino M, Satoh K. Lexical analysis suggests differences between subgroups in anxieties over radiation exposure in Fukushima. Journal of Radiation Research. 201804; 59(Suppl.2):ii83-ii90.

長谷川有史. 【災害時における耳鼻咽喉科の対応】 災害における医師の役割. ENTONI. 201812; (226):1-8.

長谷川有史, 島田二郎, 谷川攻一. 【取り組もう！BCP 災害に備えて】 医療機関に求められる BCP とは 原子力災害と BCP 放射線災害の特徴と福島第一原子力発電所事故の経験をふまえて. 救急医学. 201812; 42(13):1773-1783.

佐藤健一, 久保田明子, 根本真実, 長谷川有史. 経時変化をともしなう被ばく・被災関連資料のテキスト解析. 広島医学. 201804; 71(4):291-294.

〔その他〕

福田俊章, 坂井 晃, 狭間章博, 岡田達也, 志村清仁, 永福智志, 長谷川有史, 藤野美都子. 医学セミナーの試み 2017. 福島医学雑誌. 201812; 68(3):185-186.

著 書・訳 書

長谷川有史. 緊急被ばく医療. In: 日本救急医学会 監修. 改訂第 5 版 救急診療指針. 東京: へるす出版; 201804. p.724-728.

長谷川有史, 熊谷敦史. 大災害に直面した医師の叫び〜医療の限界〜. In: 臨床パストラル教育研究センター 編. 心と魂の叫びにこたえて 7 癒しと治し (医療者・ケアワーカーのためのスピリチュアルケア講演集). 東京: 特定非営利法人臨床パストラル教育研究センター; 201806. p.26-51.

研究発表等

〔研究発表〕

長谷川有史. 放射線災害時の健康不安や関心事は集団の社会背景により異なる テイラーメイドなコミュニケーションを目指して. 第 23 回日本集団災害医学会総会学術集会; 20180201-03; 横浜. 抄録集. 362.

長谷川有史, 田代雅実, 塚田泰彦, 島田二郎, 小野欽也. あたらしい原子力災害医療体制の現状と課題の考察. 第 23 回日本集団災害医学会総会学術集会; 20180201-03; 横浜. 抄録集. 486.

藤田基生, 阿部喜子, 今井浩之, 及川友好, 伊藤勝博, 長谷川有史, 久志本成樹, 石井 正. DMAT 活動と原子力災害医療対応. 第 23 回日本集団災害医学会総会学術集会; 20180201-03; 横浜. 抄録集. 550.

Hasegawa A. Toward the establishment of an international network for radiation disaster medicine in Asia perspectives from a transformed emergency physician. 日本放射線影響学会第 61 回大会; 20181107-09; 長崎. 抄録集. 22.

大葉 隆, 長谷川有史, 高橋真菜美, 石川徹夫, 鈴木 元. 福島第一原発事故における 19 歳以下の行動パターンによる放射性物質の複数回の吸入によるばく露の可能性. 日本放射線影響学会第 61 回大会; 20181107-09; 長崎. 抄録集. 41.

真船浩一, 菅野修一, 大葉 隆, 長谷川有史, 大津留晶. フォーカスグループインタビューから見てきた原子力災害時の診療放射線技師の役割とは. 日本放射線影響学会第 61 回大会; 20181107-09; 長崎. 抄録集. 55.

菅野修一, 真船浩一, 大葉 隆, 長谷川有史, 大津留晶. ホールボディカウンタ設置施設におけるユーザー管理状況の調査. 日本放射線影響学会第 61 回大会; 20181107-09; 長崎. 抄録集. 55.

加藤尊秋, 岡崎龍史, 長谷川有史. 原子力発電所廃炉作業者の緊急時における連帯体制づくりのための机上訓練. 2018 年度第 31 回日本リスク研究学会年次大会; 20181109; 福島. 講演論文集. 133.

〔シンポジウム〕

長谷川有史. 東日本大震災の教訓 有機的連携のために残された課題. 医療・福祉分野の事業継続シンポジウム; 20180123; 仙台.

長谷川有史. 大洗燃料研究棟被ばく事故の医療処置を考える. 第6回日本放射線事故災害医療学会; 20180922; 東海村.

〔特別講演〕

Hasegawa A. Management of Radiologic Emergencies: Nuclear Disasters. EMS ASIA 2018; 20180616-19; Davao, Philippines. Proceedings. 52.

長谷川有史. 逆説の発想から 放射線災害医療が地域医療となるためには. 第57回全国自治体病院学会 in 福島; 20181018-19; 郡山. 抄録集. 117.

長谷川有史. 変化に順応する力 福島事故から私たちの身の回りの身近なリスクを考える. 福島医学会第472回学術研究集会; 20181025; 福島.

長谷川有史. 原子力災害に対応する消防職員の不安や関心事に関する研究 カスタムメイドな災害コミュニケーションに向けて. 第46回日本救急医学会総会学術集会; 20181119-21; 横浜. 日本救急学会雑誌. 29(10):508.

〔その他〕

長谷川有史. 放射線防護に関する企画立案. 20180301; 原子力規制委員会 2018年採用案内パンフレット. 13.

長谷川有史. 医学部学びの最前線レポート 福島県立医科大学医学部 放射線健康管理学講座 災害医療学. 20180401; 日経 BP ムック 医学部進学ガイド 2018. 24.

長谷川有史. 霧と摩擦の中から 福島医大で震災患者対応にあたった一医師として. 放射線災害医療サマーセミナー; 20180806-10; 福島, 広野町. 報告書. 12.

長谷川有史. 福島被曝医療の第一線. なっとく科学. 20180823; 読賣新聞. 5.

長谷川有史. 被曝医療 未来を担う. 震災7年. 20180824; 読賣新聞. 27.

長谷川有史. 稲泉 連. 廃炉という仕事(7) イチエフ点描「普通の現場へ」. 20181018; 新潮 45. 37(10):234.